

令和6年度中学校区別研修会 報告まとめ

【防災】

中学校区	1. 防災について情報交換	2. 防災について共通理解や共有	3. その他
吉浦	<p>・吉浦中では6月に大雨、洪水などによる災害の避難訓練は、学校がある狩留賀地区の住民の方と共同で実施している。避難所の開設運営（ダンボールベッドの設営など）の実施訓練をおこなっている。今後の予定としては、冬に向けて自衛隊の協力援助をお願いし、煙の中を歩いてみるなどの体験型の訓練の実施を考えている。吉浦中学校は、各地域に生徒が居住しており、居住範囲が広く、また中学校がある狩留賀地区は、住民も少なく、中学校として、細部にわたる訓練は、他学校と違い、困難である。そのため、防災について単位PTAの活動として実施していることは特はない。（吉浦中）</p> <p>・小学校での避難訓練のほかに、自治会の防災訓練を6月の日曜日に小学校で行っている。防災訓練では、消防・警察の方にも協力していただき、救命・防犯・交通安全等についても講習を行っている。例年、煙の中を歩く訓練も行っている。最近では呉氏などのゆるキャラも来校している。あくまでも自治会が主体なので小学生の参加率は高くない。土砂災害ポータルひろしまのマップが小学校正門に掲示されている。校区が広く、距離だけで見ると、旧落走小学校付近は吉浦小学校よりも天応学園の方が近い。瀬戸見町も港町小学校の方が近い。校区単位で防災を考えるには課題が多いと感じている。防災について単位PTAの活動として実施していることは特はない。防犯に関しては、PTA役員から青少年補導員を2名選出している。（吉浦小）</p>	<p>・ハザードマップの警戒区域、災害種別ごとの避難所の確認など、学校で児童が学んでいることは、保護者も理解しておきたい。第2開設避難所（海上保安大学校）や地域開設避難所（自治会館など）が土砂災害ポータルに示されていないかもしれないので、マイタイムラインなどをつくるタイミングなどに呉氏の情報を確認したほうがよい。</p> <p>・小学校・中学校は第1開設避難所にあたり、呉市の職員が開設する。児童が学校にいる時間帯では、教職員が避難誘導を行う。自治会館などは地域開設避難所にあたり、地域住民の方が開設する。発災直後のフェーズでは、PTAが主体となって何かをするというよりも、お手伝いが主な活動になると思う。</p> <p>・西日本豪雨のとき、顔の広い民生委員の方が避難所職員のお手伝いをしていて、すごく助かったという話を聞いた。PTAでは難しいかもしれないが、似たようなことができれば有意義だと思う。</p> <p>・発災から1か月くらい経ち、徐々に生活を復旧させていくフェーズがPTAの出番ではないか。学校が再開しても被災児童はいつもどおりに授業を受けられない可能性がある。そういうときに、PTAから文房具などを配ることくらいなら割と簡単にできそう。教職員が帰宅困難者となった場合、生活の場と職場が切り離せなくなり、一般の帰宅困難者よりもストレスが大きと思う。教職員が職務に専念できる環境づくりをサポートできるのはPTAなのではないか。</p> <p>・大規模災害のときは保護者も被災者となり得るので、発災時のPTAの役割を予め固定化して義務のように捉えるのではなく、普段のPTAの活動と同様「できることを、できるひとが」で考えていきたい。</p>	
東畑			<p>・通学路の歩道橋が滑りやすく、悪天候の際に児童が足を滑らせる事例があるので、財政部会で取り上げてもらいたい。（自治体への要請案件かどうかを知りたい）（原小）</p>
明德		<p>・保小中の合同防災訓練を実施しています。</p>	
宮原	<p>・以前より中学校区では地域の防災幹事会主催による防災訓練や体験講習等を開催しており、PTAが主体というよりは地域が主体となり活動し、単位PTAとしても児童、生徒を通じて一緒に活動している。本年度も11月30日に開催予定している。</p> <p>・中学校では授業の一環として全学年を対象として、講師を招いての宮原地区の災害史、能登半島地震についての講演を行う。その後2年生を中心に体験ブースの運営を行う。地元女性会非常食の作り方など、災害時での役立つ知識などを情報共有している。地元消防団より宮原小学校、坪内小学校にも校長先生を通じて参加を呼びかけている。</p> <p>・防災に関する児童、生徒の教育としては授業の中で講師を呼び、地域の災害リスクを踏まえた知識の習得や、フィールドワークを実施し避難ルートや危険箇所の把握、建物の中での垂直避難などの方法を共有している。</p>	<p>・地元防災については地域柄、高齢者が避難しにくい環境で、避難所の環境整備についても安心できる状況になっているのかどうか把握と理解がなされていない。地域防災と連携し、災害が発生する前にどのような行動を取るか、また、自分たちがどこに避難すべきかを把握する事と、地域の備えがどのようになっているかを共有情報として持つておく必要がある。</p> <p>・災害学習や体験を実施するためには保護者の参加が望ましいが日曜日等休暇を利用し開催しないと集まりにくい状況。教職員の働き方改革とのバランスも困難である。</p>	<p>・宮原地区は丘陵地帯になるので、避難所までの避難に関しての所要時間がかかる事と避難するルートに関しても安全なルートがわかりにくい状況。日ごろからのハザードマップの確認（定期的に変わる事もあるため）と避難ルートの検証が大切。</p>
阿賀	<p>・10月9日に阿賀地区で、住民や学校、幼稚園などが参加した大規模な避難訓練が行われた。</p>	<p>・水問題「井戸」のある家または水を頂ける場所の情報の共有</p> <p>・安否確認、LINEや学校を通じて親と連絡できる体制、情報共有をはかる。</p>	
蒲刈	<p>・小中合同で年2回（大雨・津波）の合同避難訓練を行っている。年1回は小中別々で火災の避難訓練を行っている。合同で避難訓練をする中で、中学生が小学生を誘導しながら、引っ張っている姿がうかがえる。</p> <p>・津波の避難訓練の際には、地域の方も参加していただいている。今年度は、地域の方にも多く声をかけ、参加を促し、ともに避難所開設に係る研修を行う予定である。</p> <p>・今後、今まで確立している逃げ方が実際に災害時に使えなくなることも想定し、訓練を深化させていく必要があると考える。</p>	<p>・引き続き小中合同で行う避難訓練を継続していく。いざというときに児童生徒自身が命を守る行動がとれるよう、繰り返し取り組んでいくことが大切であると考えている。それに地域を巻き込んで訓練を考えていく。</p>	

【SNS】

中学校区	1. SNSについて情報交換	2. SNSについて共通理解や共有	3. その他
倉橋	<p>・4月の授業参観・PTA総会開催日にスマホの危険性について広島国際大学/江口先生の講演会を実施。生徒・先生方だけでなく保護者も受講。→長時間のスマホ使用継続が脳に与える影響の重大性を理解。スマホだけでなく、テレビやゲームといったメディアへの対応の必要性を確認。1日あたりの時間制限が必要。講演会後に生徒・保護者コメントをまとめ共有。生徒は授業時間も活用し共有。（倉橋中）</p> <p>・6月の授業参観日に、呉市ボランティア主催によるSNSの危険性を理解するためのワークショップを生徒・保護者参加により実施。→ワークショップ形式/体験型により改めて自分事として危険性を理解。対応についても一緒に議論。（倉橋中）</p> <p>・これらのことを踏まえて生徒自身がメディアに対するルールを設定、運用、実施状況をフォローしている。定期試験前を中心に制限する期間を設定して活動。（倉橋中）</p> <p>・スマホ、ケータイ安全教室をKDDIより講師を招いて夏休み前に実施。→インターネットにつながる機器を使うときに気をつけることを学ぶ。トラブルを具体的に、ルールの大切さを学び、実感する。SNSで事件や犯罪に巻き込まれる事例が多く発生している。便利だが使い方を間違えると自身や周囲を含めて危険な状況に陥る。約束を決めて、節度を持って、安全に使用する。管理をしっかり行う。（倉橋小）</p>	<p>・倉橋小、中学校では、昨年度までもメディア制限に取り組んできたが、メディアの危険性について自分事として考えることができるよう、講演会の受講、ワークショップによる体験や安全教室等、主体的に取り組める活動を実施。</p> <p>・中学校の講演会では、科学的な検証を踏まえた長時間のメディア使用による危険性の理解、対応の検討を行うことができた。</p> <p>・継続していくことが課題。講演会、ワークショップや安全教室の当日だけでなく、日々の生活の中での実行・継続を習慣化する必要がある。</p> <p>・SNSの普及により、子どもたちだけでのやりとりもSNSの中で行われるようになり、過去と比べて、保護者がいじめやトラブルを見つけにくくなっている。→帰宅後、夜間のSNSのやりとりで「○○さんと明日から話さないようにしましょう」といったことが瞬時になされ、翌日から行われるなど、陰湿・即時性も増している。</p>	

【いじめ】

なし

令和6年度中学校区別研修会 報告まとめ

【不登校】

中学校区	1. 不登校について情報交換	2. 不登校について共通理解や共有	3. その他
広中央	<ul style="list-style-type: none"> ・単位PTAで取り組んでいることはない。(広小・広中央中) ・登下校時の見守り活動や、年に1度行われる親子クラブ(昨年度は児童と保護者が集まり、ゲームや工作を行い、約60人の参加者)を通して保護者間、他学年との交流の場を設けている。ただ、不登校については個人情報に関する事柄も多く踏み込めない部分が多い。他校のPTA本部が取り組んでいる具体例があるならば、広小学校で取り組めるかどうかは別として、今後の参考にしたい。(広小) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校から、中学校へ進級するタイミングで、不登校生徒が増える傾向にあるため、中学校の支援を知ることは有意義である。(広中央中) ・不登校児童が小学校から中学校へ進学した後も、不登校が継続しているかもしれない。また進学後の環境変化などにより、新たに不登校となる生徒がいるかもしれない。そのため、小学校段階での対応が重要であり、3校が必要な情報を共有した上で、連携してカウンセラーの追加や専門スタッフの配置を要望する、児童生徒の学びの機会や居場所の確保を協議していくことが必要である。(広小) ・広中央中学校、三坂地小学校、広小学校の生徒、児童同士の交流の機会を設けることを提案したい。 	<p>(3校独自のアンケートを基に)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児(生徒)の対応には、早い時期からの介入や柔軟な支援体制の構築が求められ、これらを実現させるためには、保護者と学校の連携強化も重要であると思った。(広中央中) ・不登校の主な原因が生徒個人に帰属するものではなく、学校環境である場合、その原因に対する対応は何か行われているのか。他の生徒の中でも、現在は不登校ではないが、同じ悩みを持って、学校に行きたくないと感じている生徒は他にもいると思う。当該生徒に対するカウンセラーや受け入れられる教室、教員の確保だけでは直接的な対策にならないと考える。(広中央中) ・広小学校では、個別指導やカウンセリングの提供により、不登校児童のいる家庭との繋がりを持続することを念頭に置いて対応されている。しかし、SSRを受け入れる教室の物理的な不足や、全国的に指摘されている通り人員の不足については大変難しい課題である。(広小) ・今回のアンケートによって広小学校における不登校児童の人数や学校の対応などの現状把握をPTA本部で共有することができたことは一定の意義があった。(広小)
郷原		<ul style="list-style-type: none"> ・郷原中学校区においても、不登校の問題とは無関係ではない。しかし、不登校の児童生徒に対処するための学校側からの情報提供も少なく、保護者や児童生徒本人には不安だけが残される。 ・呉市はSSR(スペシャルサポートルーム)の設置校や教育支援の設備が少数ながら存在するが、郷原町からではそこへ通わせようにも送迎などの点で難しい場合が多い。 ・そのためにも、小規模でも各校にSSRを設置してほしい。児童生徒が安心して過ごすことができ、保護者も適切な情報が必要ときに得られることが望ましい。 	
安浦	<ul style="list-style-type: none"> ・3校ともPTAとして不登校の状況や実態は把握できていない。子どもや保護者から話を聞く程度。何かできれば、という気持ちもあるが、プライベートなことなので立ち入りにくい。 ・小学校と中学校、また同じ学校内でも担任の先生によって対応がまちまちで戸惑うことがあった。先生が子どもと話をするために家庭に連絡をしても、保護者側からシャットアウトされ、直接話ができないこともある。←学校との信頼関係が構築されていない、または崩れている家庭もあるのではないかと。 ・登校できていなくても、LINEや習い事などを通して子ども同士の繋がりはある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校(教室)に来られない子どもの居場所がもっと増えるといい。 ・プライベートなこと立ち入りにくいという面もあるが、保護者同士で意見交換や情報共有を行うことも大切だと思う。また、子どもの居場所づくりや登校できるようになるための方法についての話し合いや予算要望をするなど、できることを考えていきたい。 	

【子育て】

中学校区	1. 子育てについて情報交換	2. 子育てについて共通理解や共有	3. その他
東畑	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方々から出された意見への対応について、全国学力調査の結果に伴い、夏休みの宿題が増加傾向になったが自主学ノート一冊提出に対して「低学年の児童に多いのでは」と、保護者の方々からの意見も会議で話し合っって対応した。(原小) 	<ul style="list-style-type: none"> ・垂れ幕について、PTA会費で"賢く・優しく・遅しく"と書かれた垂れ幕を制作して、正門から正面に見える校舎の3階に掲げた。(因果関係は解らないが、授業中に席を立ったり、廊下に出たりする児童がいなくなっている)(明立小) 	
郷原		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者本人が中学校から高校へ進学していた頃と、現在の進学状況は大きく異なっており、高校に対してかつて抱いていたイメージとはかけ離れた現状を持つ高校は多い。 ・これから子どもたちを進学させる保護者にとって、学校から提供される進学に関する情報は最も重要であるが、それだけにとどまらず、保護者間での様々な情報共有が非常に有効に活用される場合も多々ある。 ・現在の進学についての最新情報は、実際に高校へ通わせている保護者からの多くの情報提供があり、頗る参考になった。 	
音戸	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の通学費の助成について、現在、小学生・中学生には呉市からの通学費の助成があり、大変助かっているが、高校生になるとそれがなくなるため、各家庭の費用負担が大きくなる。音戸町でも通学に係る費用負担は大きく、その負担が大きいため、呉市内に引っ越した家庭もある。この度の署名の依頼に関しては、蒲刈地区から発信されたが、音戸町・倉橋町のすべての小・中学校のPTA会長が署名するとともに、各学校等で署名を集めていただいた。本案件の願意が呉市長に届くことを強く願う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関しては、呉市が積極的に支援していると思うが、この度の高校生の通学費補助も前向きに検討してほしい。

令和6年度中学校区別研修会 報告まとめ

【PTA運営】

中学校区	1. PTA運営について情報交換	2. PTA運営について共通理解や共有	3. その他
仁方	<ul style="list-style-type: none"> ・リフォーム活動について（仁方小）・・・校内の掃除や修繕をPTA全員で取り組む「リフォーム活動」を行っている。昨年から今年にかけて、仁方小学校150周年事業の一環として「トイレリフォーム」と銘打ち、リフォーム活動を行いました。内容として、参観日終了後に児童と保護者が一緒にトイレ掃除や修繕を行うことで参加率がUPし、保護者からも評価をもらった。今後、リフォーム活動は児童・保護者全員で行うカタチとして続けていきたい。 ・プリントのデータ化（仁方中）・・・PTA役員の業務効率化のため、ペーパーレス化に取り組んでいるが、大事な資料やお知らせ、保護者の返信を伴うものがまだ紙媒体である。 ・部会や委員会の効率化（仁方中）・・・ライングループを作成し、事前に協議内容などをやりとりし、最終的なまとめのみ集まることで、時間の短縮を図ることができた。 ・リサイクル活動（仁方中）・・・参観や懇談の日はリサイクル活動の協力の案内を配布しているが、あまり収集率がよくない。 ・教育講演会（仁方中）・・・年1回教養部主導で、道徳参観日に教育講演会を開催している。保護者が子育てをする上で生活に必要な事をテーマに企画している。昨年度は子育て資金について、今年度は防災についてをテーマとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保体部の活動について（仁方小）・・・ソフトバレー、ソフトボールにおいて参加人数が減少している。今後は小中合同のチームを考えていった方がいいのか。昨年、コーラス活動が再開され、地域の行事に参加するなど、地元から歓迎の声を聞く。この活動も小中混合だったりするため、とてもいい事例と思う。 ・保体部の活動について（仁方中）・・・ソフトバレー、ソフトボールにおいて勧誘も困難になっている。PTAの予算の確保が難しく、希望者もいないため、今後の参加も考えていない。 ・執行部の選出方法（仁方中）・・・小学校から中学校へ新球児の執行部選出も難しく、執行部経験者への声かけに偏ってしまっている。市P連への執行部選出もあるため、早めの決定が必要となることも踏まえ、今後の対策を検討する必要がある。 	
横路	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を減らす。 ・会費を減らす。 ・地域サポートという形にする。 ・負担を減らし、子どもと接する時間を増やす。 ・各部会で呼ばれるのも負担 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しになるが、負担を減らし子どもと接する時間を増やす。 ・タイムリーに学校の修繕してほしい ・子どものための事業をしてほしい（市P、県P） 	
東畑	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA非会員について、今年度は入学時からPTAに入会しないご家庭があり、現在は数名ですが、来年度以降の増加を心配している。入学説明会で、PTA会費が何に使われているか、どのように子どもたちのためになっているか説明している。（明立小） 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員の引き継ぎについて、児童数の減少に伴い、役員への勧誘が難しくなっている。PTA会長が出張で不在の間は、副会長を中心に役員でサポートしている。（原小） ・役員決めについて、基本的に声かけで勧誘している。自宅が同じ地域だったり、職場が同じなど、協力的な方に相談する。（明立小） 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区別研修会について、教養研修部会の取り組みで、中学校区別研修会を開催することにより、各校の会長・副会長と意見交換ができ、様々な取り組みを知ることができた。（東畑中・原小・明立小） ・懇親会について、会長・副会長で、子どもたちへの思いや、PTA活動の経験を話し合って親睦を深めた。共通認識として、私たち保護者の連携が、子どもたちの安心・安全に繋がっていることから、不定期ながらこれからも中学校区の会長・副会長で交流会を開催することにした。（東畑中・原小・明立小）
明德		<ul style="list-style-type: none"> ・全員が参加出来るようにLINE（学年、役員）を活用し、相互の連携を行っています。（明德小） ・入学時に3年間の役員を決めます。（明德中） 	
広南	<ul style="list-style-type: none"> ・役員選考の方法を変更するため、規約改正案を作成中。持続可能なPTA活動となるべく、仕事の棚卸、マニュアル化をすすめている。（広南小） 		
郷原		<ul style="list-style-type: none"> ・郷原中学校区内には小中2校しかないので、2校間の情報共有や連携は比較的スムーズに行われている。また、小中PTAの合同行事も少なくとも年1回は行われるので、両校執行部や各部会間での人的交流の頻度はある程度確保できている。 ・校区内での少子化は小学校から始まるので、小学校PTA執行部がPTA運営において率先して行う少子化対策は臆目すべきものがあり、中学校側としても非常に参考にさせてもらっている。 	
両城	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話等の扱い方について保護者、学校、生徒三位一体となり規則を守ろうとしている。（両城中） ・昨年保体、今年広報（PTA新聞の作成）をなくした→保護者の負担をなくすためにPTAの活動を縮小している。（両城小） ・地域との交流で両城小学校にてもちつきを実施（今年度1月下旬に実施予定）（両城小） ・学級委員、保体、生活に分かれて活動を行っている。（港町小） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトバレー、ソフトボールは3校が合同で出ることには可能か。（小学校で出場していたので中学校に行っても出場したいとの声があるため）←お金はPTAのお金から出ているため、どうしたらいいのか？OBや協会もあるが、合同で出た場合は、お金のこと、選手のお世話などどうするのか？ ・両城小は出場する人が準備などしているため保体部をなくした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三校が協力していく必要を感じてコロナ渦も開けたとにより三校連合会を昨年度より再開した。
和庄	<ul style="list-style-type: none"> ・簡素化、負担減に取り組み、役員会を開催せずLINE等で連絡をしている。（本通小・長迫小・和庄小） ・広報部、保健部などの部を廃止し、執行部（会長、副会長、書記、会計、会計監査）中心でPTA活動を行う。（本通小） ・ソフトバレー、ソフトボールは、応援やお弁当の手配などをなくし、基本的には参加者で対応する。資源回収を今年度は実施、来年度からは地域の回収に出してもらい廃止する予定。卒業記念の広報誌は発行している。（本通小） ・学校とのやりとりも、プリントは各自で作成後メールに添付し、印刷や配布は学校にお願いするなど、作業のためにたびたび来校しなくてもいいようにしています。また、プリントにするほどではないPTAからのお知らせや連絡事項については「すぐー」でのメッセージ配信にする試みも行っています。執行部の役員からは、役員になる前に思っていたより会議や仕事量が少なく、あまり負担に感じていないと評価をいただいている。（長迫小） ・5年前に規約を改正し、規約上選任しなければならない役員数を各学級4人→3人としたが、そのときより児童数が年々減少しているため、来年度から各学級3人→2人とし、任期についても1人の児童に対して2年までと上限を設けた。改正のねらいとしては「役員」の肩書きにとらわれず、会員全体で協力してPTA活動に取り組んでいこう！というイメージだったが、自由意志での参加となるとなかなか人が集まらないという課題もある。来年度以降、役員の負担にならないかつ、会員の皆さんに参加してもらいやすい活動とするか思案している。改善に向けては、全会員に向けてPTA活動に関するアンケートをとって実態を把握する等の案が出ている。（長迫小） ・本PTAの状況としては平日の午前が集まることが多い。（専業主婦やパートタイマー、比較的時間の自由がきく自営業の方が多いかも）（和庄小） ・特に思い切った効率化とかは行っておらず、執行部の人選も比較的スムーズなため、喫緊でなんとかしなければという問題に至っていない。（和庄小） ・教頭先生がかなり献身的にやられているので今のところ困っていることはない。（和庄中） 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動をやるやらないのメリットデメリットがはっきりしない。負担が多いことや会長・副会長となると大変なイメージがある。保護者だけではなく、各学校がPTA活動をどれだけ求めているのかわからない。学校も働き方改革がされているので、実際PTA活動を活発にされると迷惑を思っている先生もいるかもしれない。（本通小） ・PTA活動は子どもたちが安心、安全に楽しく通える学校になるため必要だと思うが、時間や心理的にも負担が多いイメージがあり、また共働き家庭が多い中今の時代に合わせた活動に代わらない変わらないといけないのかと思う。PTA活動を見直す点、継続することなどを共通できたら変わっていくのではないのかと思う。（本通小） ・仕事や連絡の削減に使っているツールや方法。削減していないのであれば、どうすれば仕事を上手く回せるのか？そのやり方。次期会長の選任の仕方。（長迫小） ・ただ、一つ課題は、会長問題。下の子が1年生に入学したときから会長をしているが、未だに会長のままで、複数の人に打診をするものの、「副会長はするが、会長は・・・」という回答ばかり。（和庄小） 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員から、いろいろな意見をいただき、勉強になった。簡素化や負担減で活動は減ったが、その分役員の繋がりが薄れて、PTA活動をしている実感があまりない。（本通小） ・学校がPTA活動にどの辺まで求めているのか知りたい。など率直な意見をいただき、PTA活動がどこまで必要なのか、本当に必要なのか、考える時期にきているのかと思う。（本通小） ・ニュースにあった岡山県PTA連合会が解散した件で、色々と経緯はあると思うが、それによって困ったことがあるのか？ないのか？内なら他の地域も必要ないのではないのか？など市Pや県Pもその辺を踏まえて、活動の規模や内容を考えてみたらいいのではないのかと思う。（本通小）

令和6年度中学校区別研修会 報告まとめ

安浦	<p>・クラス役員を廃止して都度ボランティアを募る方法を考えていたが、今までどおりの方法で運営していくこととなった。</p> <p>・コロナをきっかけに資源回収を持ち込み方式に変更した。また、コーラスの廃止に伴って、クラス役員の人数を減らしたが、特に問題なく運営できている。クラス役員についての多少の意見はあるものの、毎年必要な人数は確保できている。</p> <p>・大変なのは執行部。特に次の会長をどう選べばいいのか悩んでいる。3校の話し合いで、入学式・卒業式のPTA会長挨拶をなし（無理に行わない）にできたのはとてもよかった。</p>	<p>・役員決め方を3校で揃えておくのはどうか。←小学校では6年生の保護者、中学校では2年生の保護者が会長を務めるなど。</p> <p>・役員決めについて課題になっているところも多いと思うので、他ではどのようにしているのかを聞いてみたい。</p> <p>・成人の集いの司会は荷が重い。司会以外の役割になるように提案をしてみる。（3校で安浦地区PTA連絡協議会を組織しており、年度の会長が地区社協の理事として敬老会や成人の集い等の手伝いをしている。数年前から地区P会長が成人の集いの司会を務めている。）</p>	
片山	<p>・スリム化（片山中）・・・以前は50名程度いたが、今年度は10名で運営。会長1・副会長3（内1名書記兼任）・会計1・会計監査1・学年委員3～（各学年1以上）</p> <p>・スリム化（荘山田小）・・・以前は70名程度いたが、今年度は18名で運営。会長1・副会長3・会計1・会計監査2・書記2・学年委員（任意）。昨年度より子ども1人につき1度の委員担当制や「部」（保体・文化・広報・地域連絡・ベルマーク）での活動、ベルマーク活動を廃止した。</p> <p>・オンライン化（片山中）・・・紙資料の配付を減らし、保護者への連絡はメール配信、回答が必要なものはGoogleフォームにて集計。</p> <p>・オンライン化（荘山田小）・・・会合を減らしながら、情報は随時共有しPTA実行委員内の連絡は、「LINEWORKS」アプリを使用している。</p> <p>・行事出席、挨拶などの必要性を検討（片山中）・・・PTAとして主席・挨拶が必要か、学校側と協議。</p> <p>・行事出席、挨拶などの必要性を検討（荘山田小）・・・PTAとしての出席・挨拶が必要か、文書での挨拶が可能か、学校側・地域の方との協議。</p>	<p>・PTA活動内容をブラッシュアップしていく。子どもたちのよりよい学校生活につながる活動を大切に。「例年やっていること」がPTA組織を存続させるためのPTAの仕事になっていないか、県P連・市P連への参加意義も含めて、検討・協議する。</p> <p>・持続可能なPTA活動へ。やりたくない仕事の押し付け合いではなく、楽しんで参加できる組織へ→PTAへの嫌悪意識を払拭し、委員の担い手不足の解消を目指す。保護者の生活様式の変化に対応し、活動内容をスリム化し、委員の負担を軽減。単Pの存在意義（保護者の代表として先生方と連携し、子どもたちの安全・快適な学校生活のために活動していること）を積極的に周知し、活動に協力してくれる保護者を増やす。</p>	